

ズバリ 精准预测
日能予想問題集

**1 级
读解**

日语能力测验

松岡龍美 编

にほんご

合格を勝ち取る!

南开大学出版社
天津电子出版社

ズバリ 精准预测
日能予想問題集

日语能力测验

1 级
读解

松岡龍美 编

にほんご

合格を勝ち取る!

南开大学出版社
天津电子出版社

本著作物由大新书局授权出版

天津市版权局著作权合同登记号：图字 02-2007-80

图书在版编目 (CIP) 数据

精准预测日语能力测验. 一级读解/ (日) 松冈龙美

编. —天津: 南开大学出版社, 2008.1

ISBN 978-7-310-02843-6

I. 精… II. 松… III. 日语—阅读教学—水平考试—习题 IV. H369.6

中国版本图书馆CIP数据核字(2007)第203052号

版权所有 侵权必究

南开大学出版社、天津电子出版社出版发行

出版人：肖占鹏

于志坚

地址：天津市南开区卫津路94号 邮政编码：300071

天津市南开区长实道19号 邮政编码：300191

※

天津新华二印刷有限公司印刷

全国各地新华书店经销

※

2008年1月第1版 2008年1月第1次印刷

787×1092毫米 16开本 8.75印张 114千字

定价：15.00元

如有图书印装质量问题，请与营销部联系调换，电话：(022)23678808

まえがき

日本語能力試験の科目のうち、1問の得点が最も高いのが「読解」です。

つまり、1問まちがえるとマイナス5点となって、最も得点の差が現れるのが「読解」ということです。

ですから、この「読解」で、常に70%以上の合格点を取ることが、みなさんにとって、日本語能力試験に合格するための最後の目標となります。

しかし、これまで「読解」をどのように勉強したらいいか、方法がわかりませんでした。

私は、「聴解」と同じように過去10年間のデータを徹底分析し、日本語能力試験の「読解」にはどんな問題が出るのか、分析しました。そして、やっと「読解」の勉強方法を発見したのです。「読解」の勉強は、まず文の読み方から始めます。

そして、文章の読み方がわかれば、後は、質問に合わせて練習をすればオーケーです。

この問題集で、「読解」の勉強方法を身につけることによって、確実に、みなさんの成績が上がることを私は確信しています。

みなさんが、一人でも多く試験に合格できますよう、心から祈っております。

編 者

読解問題について

1 級の読解問題は、問題Ⅰ、問題Ⅱ、問題Ⅲの 3 つに分かれています。

問題Ⅰは、1600 字程度の長い文章が 1 つ、質問が 7 つです。

問題Ⅱは、600 字程度の文章が 3 つ、それぞれに質問が 3 つです。

問題Ⅲは、300 字から 400 字程度の短い文章が 3 つ、300 字程度のタテ書き文章が 1 つ、グラフの問題が 1 つ、計 5 つの本文で、質問はそれぞれ 1 つか 2 つです。

読解問題全体の問題数は 22 問～25 問、配点は 1 問 5 点で、200 点満点に換算すると 120 点～125 点になります。目標は、このうち 70%、つまり 90 点です。問題数で言えば、16 問以上の正解が必要です。

制限時間は、文法と合わせて 90 分です。文法は全部で 36 問ですから、30 分もかかりません。

ですから、読解の時間は 1 時間、60 分あると考えていいでしょう。

問題Ⅰ 20 分、問題Ⅱ 20 分、問題Ⅲ 20 分をだいたいの目安とすれば、

問題Ⅰ：本文の読み 10 分＋（7 問×2 分）＝24 分

問題Ⅱ：7 分×3＝21 分

問題Ⅲ：3 分×5＝15 分

合計 60 分

という時間配分ができるでしょう。遅くとも試験の 1 ヶ月前には、だいたいこのペースで時間を計って、練習しましょう。

【問題数】

	2006	2005	2004	2003	2002	2001	2000	1999	1998	1997	1996
問題Ⅰ	7	7	6	7	7	5	6	7	8	7	7
問題Ⅱ	③-12	③-11	④-12	③-10	③-11	④-12	④-13	①-7	①-7	①-7	①-7
問題Ⅲ	⑤-5	⑤-6	⑤-7	⑤-5	④-5	③-4	③-3	⑥-8	⑥-7	⑥-7	⑥-7
計	24	24	25	22	23	21	22	22	22	21	21

- ① 問題Ⅰは7問、問題Ⅱは3つの文章で10～12問、問題Ⅲは5つの文章で5～7問が基本。
- ② 合計22問～25問が基本的な問題数である。
- ③ 問題Ⅰの本文は、1600字程度の長い文章であり、論理的文章である。
- ④ 問題Ⅱは2000年から、3つ、または4つの文章（600字程度）になった。
- ⑤ 問題Ⅲの文章の数は1999年まで6つだったが、2000年から3つに減り、2002年に4つ、そして2003年から5つになった。文字数は300～400字程度である。
- ⑥ 問題Ⅲには、必ず2級と同一のグラフの問題が出題される。
- ⑦ 問題Ⅲは1999年からタテ書きの文章が出題されるようになり、それまでの文章の順番・構成を答える問題が出題されなくなった。

目次

第1章	読解の基礎－本文の構成	1
第2章	問題Ⅰ	11
	1. 本文 論理的文章	11
	2. 質問	15
第3章	問題Ⅱ	47
	1. 本文 エッセイ 2000～2006年	48
	2. 質問 2000～2006年	50
	3. 本文 1995～1999年	69
	4. 質問 1995～1999年	69
第4章	問題Ⅲ	73
	1. 本文	74
	2. 質問	76
	3. タテ書き文章問題	80
	4. グラフ問題	87
	5. 文章の順番・構成問題 1995～1998年	95
第1回	模擬試験	97
第2回	模擬試験	111
解答		128

第1章 読解の基礎—本文の構成

まず、次の文章を読んでみましょう。

現在はリサイクルの時代である。リサイクルとは、古くなった品物を回収して、再び利用することである。例えば、多くのスーパーマーケットでは、牛乳の紙パックや飲料水のペットボトルなどを回収している。これをメーカーが再利用するのである。では、なぜ、リサイクルが必要なのだろうか。その理由は3つある。第一の理由は、ゴミを減らすことになるからである。第二の理由は、天然資源とエネルギーの節約になるからである。そして、第三の理由は、メーカーにとって経費の節約になるからである。経費を節約できれば、その分を消費者へのサービスに使うことができるからである。つまり、リサイクルは生活環境を守るためにとっても重要なことなのである。

どうでしょうか。ちょうど問題Ⅲの本文の長さと同じ文章ですが、みなさんは、この文章をむずかしいと感じるでしょうか。やさしいと感じるでしょうか。

この中で1級の語彙の中に入っていないのは、「飲料水」、「紙パック」と「ペットボトル」だけです。「飲料水」は「飲み物」のことだし、後の2つはどちらも液体の容器だということは文章の内容から理解できるでしょう。ですから、言葉はむずかしくないはずです。

では、何がむずかしいのでしょうか？

ここで、ちょっと復習をしましょう。

- ① 文章は、段落が集まって、できたものです。
- ② 段落は、文が集まって、できたものです。
- ③ 文は、言葉が集まって、できたものです。

ということは、逆に言うと、次のようになります。

- ① 言葉と言葉が集まって、文ができます。
- ② 文と文が集まって、段落ができます。
- ③ 段落と段落が集まって、文章ができます。

これを式で表すと、次のようになります。

- ① 言葉 + 言葉 = 文
- ② 文 + 文 = 段落
- ③ 段落 + 段落 = 文章

つまり、文章を読んで理解するということは、次のようになります。

- ①「言葉と言葉の関係」を読んで理解すること＝「文」を読んで理解すること
 - ②「文と文の関係」を読んで理解すること＝「段落」を読んで理解すること
 - ③「段落と段落の関係」を読んで理解すること＝「文章」を読んで理解すること
- では、ここで、また、質問です。

「文」とは何でしょうか？「言葉と言葉の関係」とは何でしょうか？

この答えも、みなさんは、もう知っているはずです。

文は、「主語」と「述語」でできています。

つまり、主語と述語の関係を表したものが「文」なのです。

この関係は、いわゆる「5 W (Who, When, Where, What, Why) 1 H (How)」で表されます。日本語で言うと「だれが、いつ、どこで、なにを、なぜ、どうしたのですか？」ということです。もう少しわかりやすく言うと、

- ① 何ですか。
- ② どうですか。
- ③ だれが 何をするのですか。／何が 何をするのですか。
- ④ だれが どうするのですか。／何が どうするのですか。
- ⑤ なぜですか。
- ⑥ いつですか。
- ⑦ どこですか。

これが、「文」が表す、主語と述語の関係です。文を読んで、この質問に答えること、それが文を読んで理解することなのです。

では、次に、「段落」とは何でしょうか？「文と文の関係」とは何でしょうか。

この質問に答えるために、もう一度、先の文章を見てみましょう。最初の2つの文です。

「現在はリサイクルの時代である。リサイクルとは、古くなった品物を回収して、再び利用することである。」

これをわかりやすく2つに分けます。

①「現在はリサイクルの時代である。」

②「リサイクルとは、古くなった品物を回収して、再び利用することである。」

こうして2つの文を並べてみると、すぐわかるのは、「リサイクル」という言葉が、どちらにもあるということです。そして、2番目の文は、「リサイクル」という言葉を説明していることがわかります。つまり、①と②の文の関係は、「説明」という関係になります。

では、先の文章の文をすべて並べて、関係を見てみましょう。

①「現在はリサイクルの時代である。」

②「リサイクルとは、古くなった品物を回収して、再び利用することである。」

③「例えば、多くのスーパーマーケットでは、牛乳の紙パックや飲料水のペットボトルなどを回収している。」

④「これをメーカーが再利用するのである。」

⑤「では、なぜ、リサイクルが必要なのだろうか。」

⑥「その理由は3つある。」

⑦「第一の理由は、ゴミを減らすことになるからである。」

⑧「第二の理由は、天然資源とエネルギーの節約になるからである。」

⑨「そして、第三の理由は、メーカーにとって経費の節約になるからである。」

⑩「経費を節約できれば、その分を消費者へのサービスに使うことができるからである。」

⑪「つまり、リサイクルは生活環境を守るためにとても重要なことなのである。」

こうしてみると、次のことがわかります。

①は「事実関係」を表す文である。

②は①の「説明」である。

③は②の「具体例1」である。
④は②の「具体例2」である。 } 具体例

⑤は①に対する「疑問」である。

⑥は⑤に対する「答え（意見）」である。

⑦は⑤に対する「理由1」である。

⑧は⑤に対する「理由2」である。

⑨は⑤に対する「理由3」である。

⑩は⑨の「結果」であり、⑨の「補足理由」である。

⑪は⑤に対する「意見」であり、全体の「結論」である。

} 理由

この中の「具体例1」と「具体例2」、そして、「理由1」から「補足理由」まではまとめることができますから、この文章を7つに分けることができます。実際に分けてみましょう。

- 現在はリサイクルの時代である。－「事実文」
- リサイクルとは、古くなった品物を回収して、再び利用することである。－「説明文」
- 例えば、多くのスーパーマーケットでは、牛乳の紙パックや飲料水のペットボトルなどを回収している。これをメーカーが再利用するのである。－「具体例文」
- では、なぜ、リサイクルが必要なのだろうか。－「疑問文」
- その理由は3つある。－「意見文」
- 第一の理由は、ゴミを減らすことになるからである。第二の理由は、天然資源とエネルギーの節約になるからである。そして、第三の理由は、メーカーにとって経費の節約になるからである。経費を節約できれば、その分を消費者へのサービスに使うことができるからである。－「理由文」
- つまり、リサイクルは生活環境を守るためにとても重要なことなのである。－「結論文」

みなさんは、もう、おわかりだと思いますが、これが、「段落」です。

「段落」の分け方は、人によってちがいますが、どの文章も、だいたいこの7つの文で、できていると考えられます。

つまり、「事実文」「説明文」「具体例文」「疑問文」「意見文」「理由文」「結論文」です。

そして、これらの文のつながりは、だいたい次のような順番になることがわかります。

- ① 事実文 ⇒ 説明文
- ② 事実文 ⇒ 疑問文（問題提起）
- ③ 疑問文 ⇒ 意見文
- ④ 意見文（他者）⇒ 疑問文 ⇒ 意見文（自分）
- ⑤ 意見文 ⇒ 理由文 ⇒ 具体例文
- ⑥ 意見文 ⇒ 説明文 ⇒ 具体例文
- ⑦ ⇒ 結論文

この関係を読んで理解することが「読解」です。

では、次に「段落と段落の関係」を考えてみましょう。

確かに「段落」の分け方は、人によってちがいます。前のページで7つに分けた文章をもっと大きくまとめることもできます。

- 現在はリサイクルの時代である。－「事実文」
- リサイクルとは、古くなった品物を回収して、再び利用することである。例えば、多くのスーパーマーケットでは、牛乳の紙パックや飲料水のペットボトルなどを回収している。これをメーカーが再利用するのである。－「説明文／具体例文」
- では、なぜ、リサイクルが必要なのだろうか。－「疑問文」
- その理由は3つある。第一の理由は、ゴミを減らすことになるからである。第二の理由は、天然資源とエネルギーの節約になるからである。そして、第三の理由は、メーカーにとって経費の節約になるからである。経費を節約できれば、その分を消費者へのサービスに使うことができるからである。－「意見文／理由文」
- つまり、リサイクルは生活環境を守るためにとても重要なことなのである。－「結論文」

これで5つです。これをさらにまとめてみましょう。

- 現在はリサイクルの時代である。リサイクルとは、古くなった品物を回収して、再び利用することである。例えば、多くのスーパーマーケットでは、牛乳の紙パックや飲料水のペットボトルなどを回収している。これをメーカーが再利用するのである。－「事実文／説明文／具体例文」
- では、なぜ、リサイクルが必要なのだろうか。その理由は3つある。第一の理由は、ゴミを減らすことになるからである。第二の理由は、天然資源とエネルギーの節約になるからである。そして、第三の理由は、メーカーにとって経費の節約になるからである。経費を節約できれば、その分を消費者へのサービスに使うことができるからである。－「疑問文／意見文／理由文」
- つまり、リサイクルは生活環境を守るためにとても重要なことなのである。－「結論文」

これで3つになりました。

ここで、「小論文の書き方」のポイントを確認しましょう。

それは、

- ① 事実関係を書く
- ② 問題点を書く
- ③ 原因を書く
- ④ 解決策（意見）を書く

⑤ 論証（理由・具体例・反対意見の否定）を書く

⑥ 結論を書く

という6つのポイントです。文章を読むのも書くのも同じです。

結局、文章というものは、「事実・問題点」に対する「意見・理由」を表すものなのです。

ですから、上の文章は、結局、3つの段落の最初の文をつなぐだけで、表すことができます。

- 現在はリサイクルの時代である。
 - なぜ、リサイクルが必要なのだろうか。
 - リサイクルは生活環境を守るためにとても重要なことなのである。
- これが、この文章を短く要約したものです。

このように「段落」は、大きく分けると「事実（説明・問題点）」と「意見（理由・具体例）」と「結論」の3つに分けることができます。

※「読解」とは、文章を読んで、「文と文の関係」、「段落と段落の関係」を理解することなのです。

それでは、実際に、日本語能力試験の読解問題に出た文章を読んでみましょう。

みなさんが試験のときに読む実際の文章は、ここで例に挙げた文章のように構成がはっきりしているわけではありません。

しかし、どの文章にも、必ず、「事実（説明・問題点）」を表す文と、そして「意見（理由・具体例）」を表す文があります。特に、**問題Ⅱ**（600字程度）や**問題Ⅲ**（300～400字程度）のような短い文章は、文章全体ではなく、その一部分だけを切り取ったものであるため、「事実や説明や、その要約・問題点」だけの本文が多いのです。

実際に、2004年の問題Ⅱ - (1)の本文を読んでみてください。

- ① 日本には、「湯水のごとく使う」という言い方がある。「金などを湯や水を使うように、考えなしに、どんどん使ってしまう」という意味である。
- ② 日本では、昔から水が豊かだと考えられてきた。雨も多いし川も多い。特に東京や大阪など大きな川のそばにある都市では、あまり水に不自由しなかった。
- ③ また、日本人は風呂が好きである。たっぷり入れた湯につかり、その湯をどんどん使って体を洗う。実に気持ちのいいものだ。
- ④ しかし、最近は、「湯水のごとく使う」という言い方は、ちょっと待ってくれという感じになってきた。世界の至る所で水が不足しているのである。日本のような国は例外で、大きな川の流域では、川の水をめぐって国同士が争っているほどである。雨が降らず、作物が全くとれない国も多い。
- ⑤ さらに、温泉を別にすれば、湯をわかすには燃料が必要だ。石油にしてもガスにしても、決して無限ではない。また、それらを燃やしたときに出る二酸化炭素は、地球温暖化の原因とされている。
- ⑥ もはや、日本人は、湯や水を、文字通り「湯水のごとく」使えなくなっているのである。

(500字)

この文章は、①から⑥まで、「事実」の文だと言えます。

①から③までは、日本の昔からの伝統的な事実が書いてあります。ところが、④の「しかし」からは、最近の事実が問題点として書かれています。④では、水不足の問題、⑤では環境問題について書かれています。そして最後に、⑥で、現在の状況を問題点として要約し、確認しているのです。

ここで、みなさんに注意してほしいのは、このような最初から最後まで、事実をかいた文章でも、筆者の意見が表れていて、文章の中で重要な文になっていることです。

③の「実に気持ちのいいものだ。」

④の「世界の至る所で水が不足しているのである。」

⑥の「日本人は、湯や水を、文字通り「湯水のごとく」使えなくなっているのである。」

このように、筆者の意見が表れている文を見つけるためには、文の終わりの表現に注意してください。ここに文章の中心があるからです。

では、筆者の意見を表す、文の終わりの表現を復習しておきましょう。

【重要文末表現】

- ① ～のである。
- ② ～ことである。／～必要がある。
- ③ ～ものである。
- ④ ～だろう。／～ないだろう。
- ⑤ ～だろうか。
- ⑥ ～のではないだろうか。
- ⑦ ～なければならない。／～ざるをえない。
- ⑧ ～わけにはいかない。
- ⑨ ～べきである。／～べきではない。
- ⑩ ～はずである。／～はずがない。
- ⑪ ～にちがいない。
- ⑫ ～にほかならない。
- ⑬ ～てほしい。
- ⑭ ～たいものである。
- ⑮ ～たほうがいい。／～ないほうがいい。
- ⑯ ～と思う。／～と思われる。
- ⑰ ～と言える。／～とは言えない。

文の終わりや、特に段落の終わりに、このような表現があれば、そこに必ず、筆者の意見があります。本文を読むとき、特に段落の終わりに注意して読んで、この中の表現があったら、その段落が結論部分に関係あると考えていいでしょう。

読解の本文を読むとき、まず最初に、この筆者の意見の文を見つけること。それが読解のポイントです。

練習問題 1 番

次の文章を読んで、筆者の意見を表している文に下線を引きなさい。

日本では、終身雇用制度によって、社員は会社の利益のために、個人を犠牲にすることを要求されてきた。その代わり、会社は社員を「家族」のように考え、社員が忠実である限り、定年退職までクビにすることはなかった。

ところが、最近、このシステムに変化が見られるようになり、「日本の会社員の60%がチャンスがあれば会社を替わりたいと思っている」という調査結果も示されている。

20代の会社員は、仕事がおもしろくないとか、自分の能力を生かせないという理由でよく転職する。30代で転職する人は、会社の方針や上司の考え方と合わないからとよく言う。

このように転職する傾向がもっと一般的になってくれば、日本の社会に大きな影響を及ぼすだろう。

練習問題 2 番

次の文章を読んで、筆者の意見を表している文に下線を引きなさい。

学校の成績は信頼できるものと信じられているが、だれが将来成功するか予測する場合は、あまり役に立たない。学校の成績と将来の成功を法則化するのは困難であり、むしろ例外の方が多いくらいだからである。

テストの成績が人生における成功の要因として占める割合は20%程度に過ぎず、残りの80%は、他の要因で占められている。例えば、サラリーマンの最終的な地位は、ほとんどテストの成績とは関係のない要因によって決定されるのである。

確かに、高校の1年生で、どんなにがんばっても数学のテストが、常に、クラスの平均点以下しか得点できない人は、数学者になろうとしないほうがいい。しかし、自分で会社を経営したり、国会議員になりたいのなら、夢をあきらめるべきではない。

なぜなら、テストの点数は、その他のすべての要因と比べたとき、その人の将来とほんの少ししか関係がないからなのである。

練習問題 3 番

次の文章を読んで、筆者の意見を表している文に下線を引きなさい。

私たちの社会は、既に世界共通言語が必要な時期に来ているのではないだろうか。

私たちが国際的な会議や取引を行うためには、2つの技術の発達が必要であった。すなわち航空輸送技術と通信技術である。例えば、日本の企業の経営者がドイツ人、インドネシア人の経営者とシンガポールのホテルで会って取引をするときには、飛行機による物理的な移動と、3か国語の通訳・翻訳の機械が不可欠だということである。

今よりもさらに、通信技術が発達すれば、いずれ3か国間のテレビ会議も可能になるだろう。しかし、現実にはまだまだ言葉の壁がある。同時通訳の機械が完成するには、今後も相当な時間が必要である。しかも、日本語を同時にドイツ語に訳すだけでなく、インドネシア語にも訳さなければならない。通訳・翻訳に時間をとられては、ビジネスは成り立たないのである。

それよりは世界全体の人口が同じ言葉を話せるようになれば、と思うのである。